

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：13101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720343

研究課題名(和文) 前近代ベトナムにおける地方行政システムの解明：地方文書の古文書学的検討を通じて

研究課題名(英文) Local administration system in early modern Vietnam

研究代表者

蓮田 隆志 (Hasuda, Takashi)

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授

研究者番号：20512247

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円、(間接経費) 720,000円

研究成果の概要(和文)：ハノイ近郊、タインホア省、ゲアン省、ハティン省にて現地調査を行い、現地で多数の文書史料を収集することができた。これらを活用して、宗族の活動や政権と地域社会の関係の観点から分析を進めた。その結果は、順次論文として刊行する予定だが、現在まで3本の学術論文が本課題で収集した史料を主要素材として遂行された研究の成果として刊行されている。成功を収めた大族が母貫地の地域社会と接点を持ち、地域社会側が積極的にこれを利用していたことが判明した。

研究成果の概要(英文)：During three years project, I researched fore provinces: Hanoi, Thanh Hoa, Nghe An and Ha Tinh then found out many local source materials. Using these sources, especially family chronicle and stone inscription, I have published three articles on academic journals.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：ベトナム 近世 文書

1. 研究開始当初の背景

・前近代ベトナム国家論と地方行政：ベトナムが歴史的に漢字文化圏に属し中国式の国家制度を採用したが、80～90年代にはその内実が問題とされた。非中国的要素やベトナム「独自」要素の解明が進み、O. Wolters のマンダラ論などが東南アジア諸国との共通性を強調するなど、「ベトナム＝中国のデッドコピー」という単純な理解は過去のものとなったが、王権の性格の違いを示すものとして地方統治・支配のあり方が重要な論点となった。90年代の半ば以降はこの成果を踏まえた上で、再度中国周辺にあって中国式システムを取り入れた日本や朝鮮との比較への道が開けた。桃木至朗や八尾隆生が東アジア小農社会論のベトナムへの適用を試みたのもその一環で、ここでも地方社会のありようが問題となっている。豊富な史料をもつ中国や日本に対して、制度史料が貧弱なベトナム史はマンダラ論や港市国家論など東南アジア史研究から生み出された理論研究に依拠しての貢献が主であり、一次史料から組み立てた具体的史実をもって国家機構や行政システムの異同を比較する段階に進むべき状況にきている。

・史料状況の変化と限界：ドイモイ（刷新）政策が軌道に乗った90年代以降、外国人の現地調査が可能となり、大量の村落史料（金石文や契約文書、族譜など）が発見された。これに刺激を受けたベトナム側も村落調査を精力的に展開し、ユネスコなどの資金協力も得て、史料の公刊が進んでいる。ベトナム国内所蔵の文字史料へのアクセシビリティが大幅に改善し、大阪大の上田新也やトロント大の Nhung Tuyet Tran といった若手研究者が石刻史料を中心に用いた研究を発表している。これらの村落史料は地方行政の現場で用いられた一次史料を大量に含んでおり、しかも時代的には16～20世紀の長期にわたる。中央官庁レベルでの文書も同じ史料が極めて限られているベトナム史において、一次史料に立脚して国家の性格や支配の様相を明らかにしようとするれば、地方行政こそがもっとも適当な領域なのである。ただし、石刻や族譜は影印での公刊が進んでいるものの、文書史料についてはベトナム語訳での紹介が主のため、印や抬頭といった文書の様式・形式を検討するには限界があり、現地調査によって現物を収集・確認する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は前近代ベトナム国家の構造を解明する一環として、その地方行政システムを、一次史料である地方文書を用いて再構成することを目的とする。国家が社会を統治しそこから人的・物的な財を吸い上げる“最前線の現場”が地方行政であり、その機構とパフ

ォーマンスは当該国家の構造や性格を具体的に明らかにしてくれる分野である。

本研究は、中国的行政システムの移入とその現地化という長期にわたる過程が存在し、これが問題とされなければベトナム国家の特質を捉えられない、日本や朝鮮など同様の歴史的経験を持つ諸国との比較を意識せねばならないという2点の問題意識から、課題名を時代を特定せずに「前近代ベトナム」とする。

3. 研究の方法

村落での現地調査を通じて、地域に保存されている各種史料を収集し、これを主要素材として分析した。

- ・研究対象：近20年のベトナム内外での史料状況改善とそれによる研究成果の蓄積を踏まえ、本研究は現地調査で収集された村落史料のうち、行政文書を主たる研究対象とする。これにより編纂史料から組み立てられた規範的な国家像を相対化することで、日本や朝鮮などと実態のレベルでの広域比較への道を開くことが可能となる。
- ・研究方法：申請者は過去に行った現地調査にて一定量の行政文書を収集している（業績欄1・2）が地域的・時代的に偏りがある。そこで本研究では、これまで調査の及んでいない地域で現地調査を行って行政文書を収集し両者を併せて分析する。これによって単に史料の偏りを是正するだけでなく、地域差の有無を検討することが可能となる。具体的には、北部ベトナム紅河デルタ地域・北中部きたちゅうぶ地域の村落に赴き古老宅や村の神社などに保管されている古文書（辞令（勅）や納税証明書・上申書（稟）など）をデジタルカメラにて撮影する。族譜や金石文など関連史料もできる限り収集する。収集した行政文書を群として把握して古文書学的角度から検討を加え、（A）文書がどのように取り交わされるのかという文書の伝達ルート確定とモデル化、（B）各種文書様式の分類と機能の確定。を行う。これらを通じて地方行政システムとその働きを解明する。

4. 研究成果

収集された村落史料から、同族組織（ゾンホ）の重要性が改めて、史料の根拠をもって確認された。同時に、その地域差・時代差・階層差の相互関係を適切に腑分けし、関係づける必要が明らかとなった。以下、代表的成果を挙げる：

「旧例と憑 近世中部ベトナム村落の生存戦略」（新潟大学環東アジア研究センター（編）『環東アジア地域における社会的結合と災害』所収）においては、中部フエの村落文書を用いて、村落行政および村落と地方官がとの関係を解明するとともに、中央政府と村落との交渉についても検討した。政府は

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：